

## 日光参拝

八日市場を歩く

5月には八日市場東照宮の例大祭が行われます。今年の1月に拝見した八重垣神社に奉納された絵馬の中に、「日光参拝」に関係したものが3枚ありました。

徳川家康を神格化した東照大権現を主祭神とする日光東照宮は、日本全国の東照宮の総本社とされます。江戸時代、「日光社参」として将軍家が参拝したことなどから庶民にも東照宮参拝が広まったので

市内には江戸時代から昭和に至る観音霊場や出羽三山などの「巡拝塔」が存在します。そのうち「日光」と刻まれたものは1830年代の2基のみで、いずれも「善光寺」や「秩父霊場」と合わせた巡拝塔です。

1890(明治23)年に八重垣神社へ納められた絵馬には、男性4人の先達や世話人と女性10人の奉納者名と徒歩で日光へ向かう様子が描かれています。女性は尻端折りした着物姿にこうもり傘を差し、車夫と2台の人力車、2本の小旗にはこの絵馬が納められた前年に町村合併で誕生した新町名「福岡町(八日市場町の前身名)」とこの一行の名「新講社」、左上部分には日光の社寺への入り口、朱塗りの神橋が描かれています。

もう1枚は1908(明治41)年に奉納され、女性8人の名と茶店できつろいでいる様子、左上部分には同じく神橋が描かれています。1897(明治30)年に現在のJＲ総武本線東京―銚子間が開通しており、この参拝は列車を利用したのでしょうか。

あとの1枚は表面の剥落が目立ち神橋のみがわずかに確認できる状態で奉納年や講員名を知ることができません。八日市場東照宮に信者の集まりである「講社」が明治の中頃に存在し、無事に日光参拝できたことで、「日光参拝」の絵馬を奉納したのでしょう。

(市文化財審議会委員・依知川雅一)

図書館課広報広聴班 ☎73・0080



日光参拝の絵馬